

モンゴル・エルデネット鉱山と遊牧の民

<地質調査所 須藤定久・内藤一樹>

(1) 巨大鉱床と巨大開発



1. 東西1.6km、南北1.2kmのお皿のような露天採掘場を南側の端から眺めた写真、巨大なパワーシャベルやダンプトラックが豆粒のように見える。



2. 採掘場を東の縁から撮影。採掘場のむこうの草原の中にエルデットの街が見える。



3. ひとすくい30m³のパワーシャベルと120t積みのダンプトラックが24時間体勢で採掘している。



4. 富鉱体の露頭、地表部から地下水に溶かされて運ばれた酸化銅が割れ目に付着し、緑色となっている。

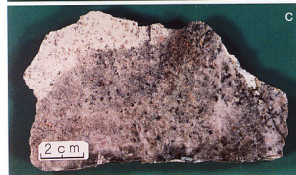


5. 採掘場に隣接する選鉱場。この巨大な建物の中で鉱石は粉砕され、銅鉱物とモリブデン鉱物が分離され、それぞれの精鉱として鉄道で出荷されていく。

(2) 銅鉱石とトルコ石



1. 「ズリ山」採掘場の外側には廃石が捨てられている。外側の草原から見ると、これはまさに巨大な山である。火山の噴石丘のようにも見える。



2. モンゴル エルデネット鉱山の鉱石。

(A~C) 一般的な銅鉱石、上から下へ鉱床の縁辺部から中央部の典型的な銅鉱石を並べた。中心部ほど細脈沿いの変質が強くなり、銅品位も上昇する。

(D) グライゼン化した低品位銅。割目に沿ってグライゼン化が進行し、中心部には花崗岩が残っている。(E) 風化銅の例。淡い緑の酸化銅の中に真っ青なトルコ石のスポットが点在する。

(3) モンゴルの人々・遊牧の民



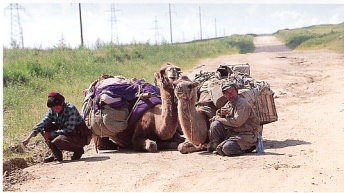
1. 遊牧民を訪ねる。鉱山
周辺の草原では、今でも遊
牧の営みが続けられている。



2. 羊を追う遊牧民。

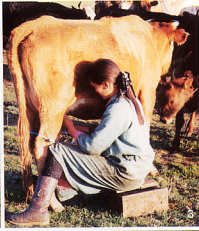


3. 遊牧民の親子、誇り高きチンギスハーンの末裔
である。



4. 車もめったに通らない幹線国道、遊牧民にはラ
クダの方が便利らしい。後ろの送電線を通じて、
東方のダルハンやロシアから鉱山へ電力が供給さ
れている。

(4)夏の草原を楽しむ人々



都市のアパートに定住した人達も、夏になると草原の暮らしがなつかしくなる。むかしなつかしい草原にゲルを作り(1)、夏を草原で過ごす人も多い。とはいえ、ゲルでの生活は自給自足の生活をしながら、馬を追い(2)、牛乳を搾り(3)、冬のために干肉、バター、チーズなどを蓄える厳しい生活だ。幼い少年も馬を駆って一人前(4)、お嬢さんが私のカメラを見ると民族衣装に着替え馬に跨がった(5)、撮影して上げるのが礼儀だという。夜、ゲルの中では、馬乳酒を酌み交わしながらジャンケン遊びに興じる(6)。

都会派の人達も、仕事の後、唐松の森へピクニックに繰り出す。羊の肉と赤く焼いた石をアルミの圧力鍋に入れて煮るのが最高の料理。日が暮れるのは夜の10時過ぎだ(7, 8)。

